

新技術・情報名	夏季における産卵鶏の強制換羽技術	
実施場所	三重県農業技術センター畜産部	分類 ①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

卵価の低い夏季に強制換羽を施して休産させ、卵価の上昇する秋から冬にかけて多く産卵させることは鶏卵販売上、有利な方法である。そのため、種々の日齢の鶏に対して、夏季に強制換羽を施し、その後の産卵状況について検討した。その結果、産卵初期(24週齢)、産卵ピーク時(35週齢)、産卵後期(60週齢)、産卵末期(76週齢)の鶏については強制換羽後の産卵率が向上することが確認された。

2) 技術・情報の適用効果

産卵ピーク時と産卵後期の鶏に対して、夏季に強制換羽を実施して92週齢時まで飼育期間を延長することにより、1日1羽当たり経済性が向上する。また、いずれの週齢の鶏も強制換羽を施すことにより卵殻質及びハウユニット値が改善される。さらに、強制換羽を実施している期間について、給餌、集卵、除ふんの労力が不要となる。

3) 適用範囲

産卵鶏を飼養する農家全般

4) 普及指導上の留意点

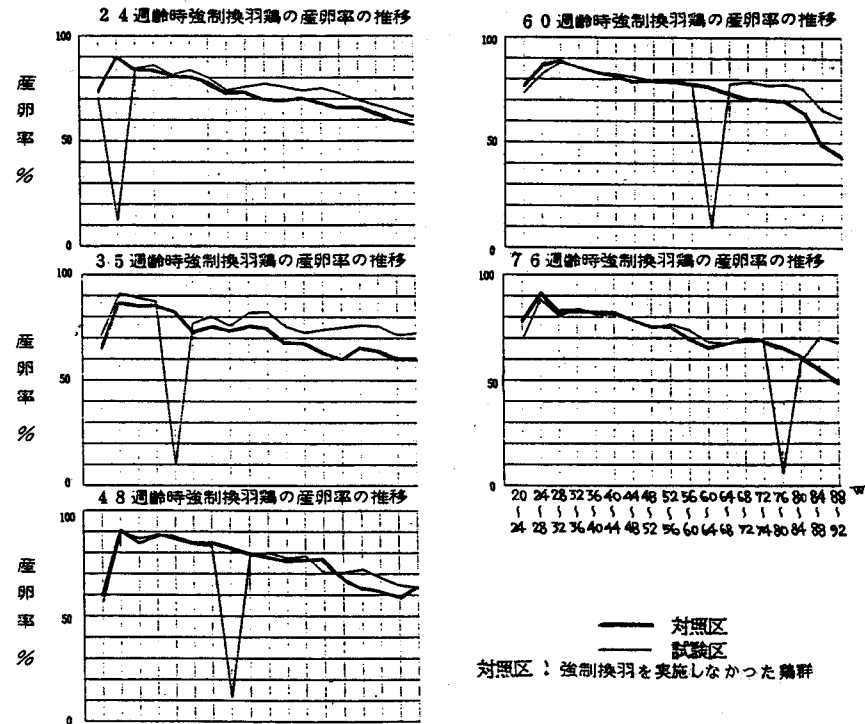
卵価の動向を予測して実施する必要がある。全農家が夏季に強制換羽を実施すると需給バランスが崩れ暴目にも考えられるので、他の農家の動向を情報として知る必要がある。

(養鶏研究室 水野隆夫)

2. 具体的データ(図表)

産卵期	強制換羽週齢W	強制換羽産卵率%	50%産卵回復日数日	処理による体重減少率%	1日1羽当たり経済性(円)			
					20~76W		20~92W	
					無処理	処理	無処理	処理
初期	24	70.6	27	27.9	4.900	4.758	4.972	4.954
ピーク時	35	87.2	28	27.9	4.864	5.065	4.979	5.392
中期	48	83.1	28	27.6	5.770	5.317	5.861	5.715
後期	60	77.3	29	29.2	5.558	5.102	5.886	5.813
末期	76	69.2	35	30.7	5.038	5.143	5.021	4.918

※強制換羽産卵率は強制換羽実施前4週間の平均産卵率とした。
 ※1日1羽当たり経済性は1日1羽当たりの産卵代から飼料費、成鶏補充費を差引いた。
 ※産卵代は昭和60~62年の月別平均卵価で算出した。



3. その他特記事項

研究課題名： 卵用鶏の経済的強制換羽試験

期間： 昭和61~63年度

予算区分： 県単